

平成27年度 事務事業マネジメントシート

事業名	図書館夜間・祝日開館事業			会計	款	項	目	大事	小事
				01	10	05	07	02	55
政策	03	3節 学び、受け継がれ、進展する流山（教育・文化の充実向上）		主管課	図書・博物館				
施策	3-1	いつでも、どこでも、誰もができる生涯学習の推進		主管課長	小栗 信一郎				

I 事務事業の目的・内容

事業目的	対象	夜間・祝日に図書館を利用したい市民	意図	夜間や祝日も図書館が利用できる環境を整備する。
事業内容	流山市立管理規則に基づき、夜間は中央図書館・森の図書・木の図書館・南流山分館の4館では午後8時（試行により12月から4月までは午後7時）まで開館する。祝日開館は全館で行い、図書館資料の閲覧、貸出、読書相談、予約サービス等の業務を行い、市民のいつでも、どこでも、誰でもできる生涯学習を実現する。			
事業開始から現在までの状況変化	平成16年3月及び6月の図書館協議会の協議を踏まえ、10月1日から市民の生涯学習機会を拡充するために開始。・夜間開館：中央図書館・森の図書館・木の図書館（平成24年度から）・南流山分館の4館で火曜日から土曜日は夜8時まで。・祝日開館：全館午後5時まで開館。・なお平成25年に引き続き平成26・27年度の夜間開館については、利用の少ない12月から4月まで、試行で開館時間を1時間短縮した。			

II 事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	名称	平成25年度	平成26年度	平成27年度	単位	目標方向	算定式（成果指標の場合）
		①	夜間利用者数	31,990	34,779	33,602	
②	夜間貸出数	109,024	117,915	114,364	冊	→→	
③	祝日利用者数	12,625	15,237	15,529	人	↑↑↑	
④	祝日貸出冊数	45,765	55,023	55,771	冊	↑↑↑	
指標で表すことができない定性的な成果	平成27年度は森の図書館ESCO事業工事の影響で夜間利用が減少となったもの。						目的に対する現状（客観的事実・データに基づく現在の状況や取組状況）
事務事業のコスト	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成27年度は、おおたかの森こども図書館が開館したことにより、祝日開館の実績が増加しているものである。森の図書館の工事により祝日1日が休館になったにもかかわらず、利用者が昨年度比約2%増、利用冊数昨年度比1.4%増であった。			
事務事業の総コスト(a=b+c)	12,472,638	12,799,574	12,942,169				
事業費(b)(円)	4,088,508	4,470,044	4,106,569				
うち一般財源	4,088,508	4,470,044	4,106,569				
職員給与費(c)(円)	8,384,130	8,329,530	8,835,600				
人役・職員(人)	0.70	0.70	0.70				
人役・再任用(人)	0.07	0.07	0.10				
人役・臨職(人)	2.50	2.50	2.50				
人役・嘱託(人)							
初期投資コスト(円)（建設又は取得年度のみ記入）							
想定耐用年数（年）（建設又は取得年度のみ記入）							

III 事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善 <※主管課長記入>

(1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	A 必要性が高まると考えられる	有効性	目標達成度	A 達成できた
		市関与の必要性	A 市が担うべき	効率性	対象者の適切性	A 対象者は適切である
					コストの削減	A 削減の余地はない
総合評価	II 継続（事業を現状どおり継続すべき）					

(2) 事務事業の業務改善について

①今年度(H27)の改善計画	引き続き夜間開館の冬季1時間短縮を試行で実施し、利用の多い夏休み期間中の月曜開館を実施する。	③取組の課題	おおたかの森出張所の回送作業を、全日開館の夏季月曜日に行うのは負担が大きい。人員の拡充が必要と思われる。
②今年度(H27)に実施した取組	夜間開館の冬季1時間短縮、夏休み期間中の月曜開館、及び7月31日の月末館内整理日を開館した。	④今後の改善計画	冬季夜間7時まで、夏休み期間中は全日開館が浸透してきたので、試行としてではなく、運用したい。